

本 会 記 事

1. 昭和60年度総会ならびに研究発表会

四国植物防疫研究協議会の昭和60年度総会ならびに研究発表会は、約170名が参加し、11月14、15日の両日、松山市の愛媛県農協会館で開催された。

1) 総 会

14日13時から開かれ、昭和59年度会務報告が承認されたのち、昭和60年度の事業計画および予算案が上程され、承認された。議長は愛媛県専技の上田進氏が当られた。

2) 研究発表

14日13時50分から15日12時15分まで、次の16題の講演が行われ、討論があった。座長は十河和博、藤田育資、高井幹夫、加々美好伸、都崎芳久、倉田宗良、の各氏が当られた。

(1) 酒井勇夫(徳島県脇町防除所)：二条大麦の縞萎縮病の発生程度と被害について

(2) 後藤孝雄・勝部利弘(四国農試)：水稻栽培様式がもみ枯細菌病発生におよぼす影響(2)無降雨、殺菌土条件下の発生

(3) 安永忠道・別宮岩義・青井俊雄・重松喜昭(愛媛農試)：カスミン粒剤の箱施用とイネもみ枯細菌病の本田発病との関係

(4) 山下 泉・北村正和・川村 満(高知県南国防除所)：高知県の早期稲におけるイネミズゾウムシの被害解析

(5) 高井幹夫・吉良四郎(高知県中村防除所)：イネミズゾウムシ越冬成虫の飛しょう筋再発達の誘引条件について

(6) 西山芳郎・葛西辰雄(香川農試)：イネ縞葉枯病の防除適期について

(7) 香西修治・若村定男(四国農試)：ハスモンヨトウ標識再捕獲実験の方法について

(8) 寺峰 孜・筒井永幸(高知県蚕試)・坂井田由章(高知県園芸蚕糸課)・山本 磐(高知県農業技術課)：クワ輪斑病の被害

(9) 橘 泰宣・佐川正典(愛媛果試)・西山富久(愛媛果試南予分場)・矢野 隆(愛媛果試)：SDV保毒楠本早生温州の果実品質について

(10) 別宮岩義(愛媛農試)・井伊吉博(愛媛県南予防除所)・青井俊雄・安永忠道・重松喜昭(愛媛農試)：キュウリ褐斑病の薬剤防除

(11) 安永忠道・別宮岩義・青井俊雄(愛媛農試)・橋田信行(愛媛県農業指導課)・重松喜昭(愛媛農試)：キュウリ・メロン茎の乾腐症状の新発生

(12) 北村正和・松本高雄(高知県安芸防除所)・中田卓也(高知県安芸農改)・小松 勉・清遠 宏・白石和彦(高知県安芸農協)・山本 磐(高知県農業技術課)・長井雄治(千葉農試)：促成ピーマンのTMV-トウガラシ系に対する弱毒ウィルス(C-1421)の実用効果について

(13) 山崎康男(愛媛農試)・武智和彦(愛媛県中予防除所)：コナガの主要薬剤に対する感受性

(14) 行成正昭・賀川 実(徳島果試)：ヤノネカイガラムシに対する導入寄生蜂ヤノネキイロコバチの越冬状況と寄生の同調性

(15) 都崎芳久・十河和博(香川農試)：香川県で新発生したパセリ炭そ病、うどんこ病について

(16) 安永忠道・青井俊雄・別宮岩義・重松喜昭(愛媛農試)：トマト半身萎凋病の新発生と防除対策

3) 特別講演

14日15時40分から17時まで、愛媛県立果樹試験場大森尚典氏による「伊予柑かいよう性こ斑症の原因と対策」、同森介計氏による「ミカンハダニの被害と要防除密度」の講演があった。

4) 協議

15日9時から10時まで、本年度の病虫害発生の特長とその対策ならびに防除上の問題点について、金磯泰雄(徳島)、野田弘之(香川)、武智文彦(愛媛)、松崎征美(高知)の各氏の報告が行われた。座長は谷幸泰氏が当られた。

2. 次年度大会

昭和61年度本会総会および研究発表会は香川県が担当し、昭和61年11月に高松市での開催予定が決められた。